



ジェンダー平等社会の実現にむけて 学ぶ! つながる! ひろげる!

世の中ではジェンダー平等が進んできたと言われてますが、実際はどうなのでしょう。誰もが暮らしやすい社会づくりのために今、そしてこれから必要なこと…若者が真剣に思いを出し合っています。



「機会を捉えて児童・生徒と教師がともにジェンダーについて学んでいければ」
「『当たり前』や『ふつう』の見直しを」

第4回 8月22日(木)

テーマ「学校とジェンダー」

voice

・「女性を守られるもの」といった空気を今も感じる(いろんな意味で)一方、更衣室がないなど男子がないがしろにされている部分も確かにある。
・自分自身、男子生徒に対して「そこで泣くか?」などと思ってしまうことも。心の中の動きは自由であるものの、自身の考え方のクセへの気づきは忘れてはならない。(県内現役教職員)
・特別扱いも差別となりうる場合があるのではない。
・更衣室の問題をはじめとした、物理的な難しさ、をどう考えるか。
・吹奏楽部で、男女をあまり意識することなく参加できたのはよかった。
・スポーツや部活動、どうしたらみんな楽しんでるか、困った時などを「よい機会」と捉えてみんなで話し合っていければ。(県内現役教職員)
・ジェンダー平等について考えることは、「自分を保つことにつながるのかも」。
・生物学上の男女差などのいかんともしたがたさはあっても、なんとか考え方をアップデートしていきたい。(聖泉大学富川拓准教授)



第5回 9月26日(木)

テーマ「防災とジェンダー」

・若者は、災害時の救助活動や避難所運営の「担い手」になることができる。

- ①女性や当事者が選択し、交渉したり意思決定したりできること
 - ②社会のジェンダー規範や男女の意識の改革、アンコンシャスバイアスへの対応
 - ③法律や制度、社会規範の変革の3つのプロセスがジェンダー平等を進めるためには必要。
- ・ジェンダーと多様性の視点に立った防災・減災・復興・平時時から災害にレジリエントで公正な社会の実現を。(ミュージストリーム代表・滋賀県立大学男女共同参画アドバイザー 勝身真理子さん)



・なぜ「防災」に女性をはじめとした多様な視点が必要なのか、普段からの意識の持ちようがいかに重要か、真剣に考えられた。
・「行きたくない避難所」「行きたくなる避難所」を考えることをおして、防災がより自分事になった。

第6回 10月26日(土)

テーマ「世代とジェンダー」
世代間交流をしよう!

・異なる世代の方々と交流をとおして、課題に

「ジェンダーと向き合うことは、自分を大切にし、
人生を豊かにすることにつながる」

「“世代”ではなく“その人”がどう考えているのかが大事」

「働いているといろんな“転換点”がある」

「自分がどうしていきたいのか、どうなりたいのか、を軸に!」

voice

・対するアプローチの仕方などについて学びを深めることができた。
・年齢、性別など関係なく、みなさんの活動や、活動に対する思いを聞いたのがよかった。
・「目の前の人を大切にする」ということについて考えられた。
・話してみることで分かることがお互いにいろいろあるのだと知った。
・若い世代の自分が、いかにジェンダー平等に近づきつつある環境で生きられているのかを実感した。
・「こんな考え方もあったんだな」と思った。いろいろな視点から物事をみることを学んだ。



第7回 11月8日(金)

テーマ「働く」とジェンダー」

・今の若い世代は学校でジェンダー平等などについて学んでいるが、学校から社会(会社)へ出る際にギャップがある。そのギャップがなくなるようにと考えている。

・自己成長できる場や、いろんなチャレンジを与えてくれるフィールドがここにはある。

・男性、女性関係なく「学ぼう」と思ったら学べるし、思いをもって動いたら結果は出る。

・今は、結婚している／していない、子どもがいる／

いない、男性／女性……といった”属性“で扱われない、そういう集団の中で働いている。

自己成長できるフィールドを。目標をもち、楽しさを感じながら働きたいと思った。

まずは知ることが大事。人と話をするのが最初の一步。

流れの中で自分の「軸」を見つける。
「まずやってみる」思いをもち、なりたい自分へ
向かっていきたい。

第8回
12月24日（火）

テーマ「一人ひとりが幸せ感じる滋賀と
ジェンダー」必要なことって」

意見を言いやすい環境を整えることが大切。

このテーマ（ジェンダー平等社会の実現）に関心
の薄い人の目にもとまるように
発信等していくことも必要。

「男性が」「女性が」ではなく
「一人ひとりが」自分らしく活
躍できることにもっとフォーカ
スすべきでは。

ジェンダー平等になっていないとすれば、その理由をまずは探り、理解する。計画や取組を、若い世代にもっと知ってもらえるようにする。



どなく、結婚しない人も増えた。少子化とジェンダーはやはり関係があるのでは。ジェンダーよりもお金がより関係しているのではないか。金銭面がやはり大きな不安要素。自分は早くに子どもを産みたいという思いがあるが、社会人になってすぐに妊娠して仕事を休むのも不安。

今子をもつことはリスクでしかないとも言われるが、「子が欲しい」という思いがあるのなら、リスクだけでもないのでは。

「愛しい」「尊い」と思える感性がとても大切だと感じた。今こうしている瞬間も「奇跡」のおかげ忘れず生きていきたい。

第10回 2月15日(土)

テーマ「武道・部活動とジェンダー」

身体的に女性が不利というところでの区分は理解できるが、「そこは分けられたくない」といったプライドもある。（剣道）

男女関係なく競える部分もあるが、継続することに関しては女性ハードルが高い。(空手)

男性と女性が一緒にできるのが魅力。でも大会は分かれている。(弓道)

これまでずっと大事にされてきたものの、「伝統」との兼ね合いもあって…。

当たり前と思っていたことをジェンダーの視点からみることで、学べることがある。

「出された意見を否定するのではなく、ではどうすればよくなるのかと議論を続けることで、諸々の環境等も整っていくのではないか」
「形だけでなく本質も」

「何でも話し合いができる、対等な人間関係のもとで子は授かるもの」

・ジェンダー平等を推進することの意義（メリツト）を皆が理解できるように。

・どんなに制度が整えられても人々の意識改革が伴わないと効果は限定的なものになるので、まずは一人ひとりがしつかり”知る”ことが大切。

第9回 1月16日(木)

※産む、産まない、どちらかを推奨するもの

・自分らしい生き方と言われる時代。「稼いだお金を子どものことにとられたくない」と思う人も。

・一方で、産むこと、育てること、
生きること……が尊重される社会でもやはりあつてほしい。

・生まれてから、体と心が合わなくなることもある。だから「一人ひとりが大事」「その人らしさ」「自分で決めていく」という価値が意味をもってくる。

・少子化とジェンダーは関係があると思っている
「自分らしい生き方」と「生殖、命のつながり」ということを、今後どのように考えていけるか……」

・健康への気づかいをもっとするべき。女性だけでなく、もちろん男性も。

「産まないといけない」という流れが最近はそのほ

★これからも『ジェンダー平等ミーツینگ』は続きます。

現在、令和7年度の「中心メンバー」を募集しています。「講師とともに学びを深めたい」「学んだことを地域の学校やラジオなどで発信したい」「〇〇に会いたい」「つながりの輪を広げたい」……めざす社会の実現にむけて、みなさんの思いを聞かせてください。

GINEETしや、アドバイサーの先生も全力でサポートします。ご応募お待ちしております。

- ・IC 15 名程度（若者であればどなたでも）
- ・各回の内容を考え進捗するよう、一年間ミニ

・5月から2月まで毎月1回開催予定
・基本土曜日の3時半〜5時半

(平日開催もあり)

・@GINETしが内研修室
(おでかけもあります)

ご応募は
こちらから
↓




・今までの活動についてはこちらをご覧ください

